

日本の高等教育におけるグローバル化ビジョン実現のための

University Hub Haneda Airport (UHHA) の発足

日本空港ビルデング株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長 鷹城勲、以下「日本空港ビルデング」）は、日本の高等教育におけるグローバル化の第一人者として活躍されている中嶋嶺雄氏の掲げるビジョンに共鳴し、このたび、University Hub Haneda Airport（以下、UHHA）の構想実現に向け協力の方針を固めました。

中嶋氏は、「知的好奇心は最高のエンタテイメントである」をコンセプトに「国内の高等教育のグローバル化」の実現に向けてUHHA エグゼクティブ・コミッティ（座長：中嶋嶺雄氏）を発足。国際教育の第一人者であると同時に、国際的な音楽イベント等を開催する才能教育研究会の会長でもある中嶋氏ならではの手法で、高等教育のグローバル化を目指します。また国際教養大学における産官学の連携強化や、海外大学とのネットワークの構築等の成功を通して、理事長自身がベンチャーを体現しており、教育と経済の二つの視点で課題・問題の解決策を見据えています。

UHHA エグゼクティブ・コミッティは、各界を代表する有識者のメンバーの方々が各々の見地から闊達な論議を展開し、課題解決のための提言を発信して参る予定です。

当社は、羽田空港が有する航空ネットワークハブ機能のポテンシャルを最大限に活用することで、中嶋氏が掲げる教育機能のハブ化構想を支援するとともに、UHHA エグゼクティブ・コミッティが発する提言を“UHHA プロジェクト”として今後のターミナル運営に反映させて参りたいと考えております。

【本件に関するお問い合わせ】

日本空港ビルデング(株) 広報・IR室

電 話 (03) 5757-8030

【UHHA設立の背景】

現在、日本においては主要大学が9月入学への移行を検討開始する等、国際標準の人材育成・交流の促進、そしてその仕組みづくりが緊急の課題となっています。変化の速いグローバル時代において、スピード感をもって対応しなければ、この先、日本の教育は国際社会から取り残されることは必至です。また経済界はTPPを始めとする国際化の渦中にあり、グローバル感覚を持つ人材の育成が急務となっています。日本が力強く復興するために、高等教育の国際化は、我が国の最重要課題といえます。

【日本の高等教育のグローバル化への課題】

- 秋入学への移行に伴う大学が抱える課題
 - ①入学時に生じるギャップイヤーの有効活用法
 - ②外国人留学生の受入強化（寮の確保等）
 - ③魅力あるカリキュラムづくり
 - ④英語による講義の拡充
 - ⑤海外大学との単位互換しやすい仕組みづくり
 - ⑥国内外留学生に対する奨学金の充実
 - ⑦卒業時のズレに伴う就職時期の通年化
 - ⑧産官学プロジェクトの強化等

- 産業界が抱える問題
 - ①秋入学に伴う一括就職制度の見直し
 - ②グローバル感覚のある人材の確保

【UHHAのビジョン】

『日本の高等教育のグローバル化』

国内主要大学よりも10年先行する中嶋氏は、高等教育のグローバル化に伴い、今後各大学（学生）が直面する課題・問題をすでに経験しており、さらにこれから取り組むべき課題も認識。UHHAは、これからグローバル化を進める各大学（学生）を支援し、ビジョンを実現するための“オープン・プラットフォーム”を目指します。

【UHHA エグゼクティブ・コミッティの役割】

UHHAエグゼクティブ・コミッティは、中嶋氏の推薦により選任。UHHAの方向性・指針、具体的な施策の検討を重ねていく機関として位置付けております。会議の内容は定期的に広く社会に提言し、誰もが情報共有できる仕組みを整えます。

エグゼクティブ・コミッティの参加メンバーは以下の予定です。

座長 中嶋 嶺雄	(国際教養大学理事長・学長)
猪瀬 直樹	(東京都副知事)
佐々江 賢一郎	(外務事務次官)
板東 久美子	(文部科学省高等教育局長)
鈴木 寛	(民主党参議院議員)
安倍 晋三	(自由民主党衆議院議員)
前原 金一	(経済同友会副代表幹事・専務理事)
グレン・S・フクシマ	(エアバス・ジャパン株式会社 取締役会長)
宿利 正史	(国土交通事務次官) ※2012年3月1日、新たにご承認いただきました。

(順不同、敬称略)

その他のメンバーの方々は現在調整中です。

【UHHAエグゼクティブ・コミッティへの協力】

- ・ UHHA事務局の運営協力
- ・ UHHAエグゼクティブ・コミッティ開催に関する協力・支援 等

【羽田（日本空港ビルデング）が想定するテーマ】

変化の速いグローバル社会においては、変化に対応するスピード感が求められます。

「時間軸」で見た場合、羽田空港は、国内各地はもとより海外とも最短時間で結ぶ場所として、中嶋氏のビジョンに最適でありました。現在、国内48空港、海外15空港と直結されており、アクセス性の良さは拠点としての大きなメリットと考えます。

さらに世界第5位6,400万人の航空利用客へのアナウンス効果も期待できます。

当社は、取り組むべき課題として以下のテーマを現時点で想定しています。

● 高等教育グローバル化情報センター（仮称）の設置検討

産官学が連携した情報発信機能の拠点として、高等教育グローバル化情報センター（仮称）設置を検討。

UHHA加盟大学の共有サテライト・オフィスとしての利用、また、国内外を問わず全加盟大学のパンフレットや資料を設置する受付カウンターや、公開講義等を開催できるセミナースペース、カフェ機能、図書館機能等を検討。

企業側情報発信機能として加盟企業の就職相談窓口も将来的に検討の予定です。

高等教育と社会をつなぐプラットフォームとして一元的に情報収集・発信できる拠点としての活用を目指します。

● 就労・留学サービスプログラムの開発検討

留学時における学生の経済的負担を軽減するためのプログラムの開発を検討。留学を希望する学生に就労の場を与え、その対価として海外留学させる等、産業界と教育界との連携により実践的な就労・留学システムプログラムの提供を目指します。

● ウェブサイトによる情報発信機能の検討

国内の学生も、海外の学生も進学する大学の特徴＝強み（何を学べるのか）を知る事が大学選択の重要なポイントとなっています。そこで、UHHAのウェブサイトは各大学の

オープン講義や産官学連携プロジェクト等のプラットフォームになることで、実際の大学の空気感を知ることのできる内容構成を目指します。

将来的には、双方向コミュニケーションを可能とする動画配信や、SNSの可能性も追求し、リアルでライブな留学情報や就職情報等のツールとしての活用を検討します。

● グローバル発信機能を有するシンポジウム・セミナー等の開催を検討

産官学／産学プロジェクトの発表の場として、空港ターミナルの積極活用を検討。デザインウィークや技術見本市等の開催により活性化を促進。またこれらに加え国際会議、シンポジウム等を行うことはインバウンド強化策になると考えます。

● ベンチャー・スピリッツ・インキュベーション機能の検討

新規事業を立ち上げる学生・社会人に対し、国内外へのアピールの場を羽田空港に設けることで発展可能性を後押ししたいと考えます。また日本市場への進出を計画する海外ベンチャー企業にとっては、羽田空港は効率的なテストマーケティングの拠点となりえると考えます。

※ 上記想定テーマに関しては、エグゼクティブ・コミッティが発する提言を受け、スピード感をもって導入検討の予定です。

以上